

研究・調査報告書

報告書番号	担当
350	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Gabapentin reduces alcohol consumption and craving: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial. ガバペンチンはアルコールの消費量と欲求度を低下させる:ランダム化二重盲検偽薬対照試験	
執筆者	
Furieri FA, Nakamura-Palacios EM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Psychiatry. 2007 Nov;68(11):1691-700.	
キーワード	
ガバペンチン、アルコール飲酒量、欲求度、ランダム化二重盲検偽薬対照試験	
要 旨	
<p>目的： この研究は、28 日間のガバペンチンによる治療が、アルコールの消費量と欲求度を減少させる効果を検証した。</p> <p>方法： ブラジル公営外来専用薬剤治療センターで、平均年齢 44 歳、平均飲酒歴 27 年、ベースライン調査前 90 日間の 1 日飲酒量 17 ドリンク(165~170g/日)、他に医学的、精神的な異常所見のない、60 人の男性アルコール依存症患者を対象として、ランダム化二重盲検法による、偽薬を対照とした実験を実施した。対象者は 2004 年 7 月 8 日から 2005 年 2 月 24 日の間に募集した。スクリーニング検査の後、60 人を選んで、急性離脱症状治療のため、最低 7 日間ジアゼパムとビタミン剤を投与した。解毒治療のあと、ランダムに選んだ 30 人にはガバペンチン (300mg×2 回/日) を 4 週間投与し、ベースライン調査では類似した特性を示した残りの 30 人には、同様の期間、類似した偽薬の錠剤を投与した。</p> <p>結果： 28 日間の治療の後、ガバペンチン投与群では、偽薬群に比べて、1 日のアルコール摂取量も大量飲酒した日のパーセンテージも (いずれも $p=0.02$) 減少しており、また飲酒しなかった日のパーセンテージは ($p=0.008$) 増加していた。さらに、治療後、両群で取りつかれたような強迫的症状の改善が見られたが、これは機械的に飲酒が減少したことと、偽薬群よりガバペンチン群でアルコールの欲求度が減少した結果と思われる。</p> <p>結論： ガバペンチンはアルコール摂取量と欲求度を低下させ、禁酒を継続するために患者の助けとなるかもしれない。これらの結果は副作用も認めず比較的安全であることも含め、ガバペンチンがアルコールの離脱と依存症の治療に有効な薬である可能性を示している。</p>	